

入院時にフレイル評価を受けた患者様へ

1. 研究の対象

2023年6月1日から2024年4月30日までの間、東京都健康長寿医療センターで入院するためにフレイル評価を受けた患者様

2. 研究目的・方法

当センターでは「高齢者入院患者におけるフレイルと抗コリン負荷の関連」の研究を実施しております。厚生労働省報告書によるとフレイルは「加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態であるが、一方で適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像」とされており、元気な生活と、介護が必要な生活の間です。つまり、早めに気づいて適切なケアを行えば、元気な状態に戻る可能性があります。そのため、早期の発見と介入が高齢者では特に大切です。

抗コリン薬は、しばしば症状改善に用いられます。喘息や頻尿の治療に使われる薬ですが、副作用も多く知られています。例えば、口が渇く、便秘になる、転びやすくなる、認知症のような症状が出るといったことがあります。こうした副作用が、フレイルを悪化させる可能性があります。

そこで私たちは、2023年6月1日から2024年4月30日までの間に、東京都健康長寿医療センターに入院した患者さんのデータを使い、フレイルの程度と抗コリン薬の関連を分析します。

本研究は患者様お一人ずつの直接のご同意を頂かずに、このお知らせをもって患者様皆様からのご同意を頂いたものとみなさせていただきます実施いたします。なおこの研究における患者様の費用負担や謝礼などはございません。

研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加をご希望されない場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

3. 研究期間

倫理委員会承認日～西暦2029年12月31日

4. 研究に用いる試料・情報の種類

入院日、退院日、性別、年齢、身長、体重、認知症重症度：DASC-21（IADL、BADL）

DPC 病名コード ICD-10 入院の主な状態の9つの疾患分類

（筋骨格疾患、神経疾患、胃腸疾患、悪性腫瘍、代謝性疾患、腎疾患、心臓病、呼吸器疾患など）、予定入院、緊急入院、外科的治療、入院期間、退院場所、再入院、入院元
認知症高齢者の日常生活の自立度（厚労省）、入院時、退院時のバーテルインデックス
レセプト種別コード

処方歴（定期内服・定期外用、定期吸入、頓用）

※検査用、トローチ、湿布、点眼、軟膏、うがい、点鼻、スプレー、坐薬は除外
全薬剤数、薬剤種（抗コリン作用を有する薬剤）

電子カルテフレイル指標

（electronic Multimorbidity Frailty index、簡易フレイルインデックス）

5. 個人情報の取り扱い

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。収集した情報は解析のため、研究協力機関である昭和大学薬学部に送られますが、その際にも個人が特定できない形で送られます。

本研究で収集した試料・情報は、本研究目的以外に使用しません。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号 03-3964-1141（内線：2015）

研究責任者：東京都健康長寿医療センター薬剤科 島崎 良知

-----以上